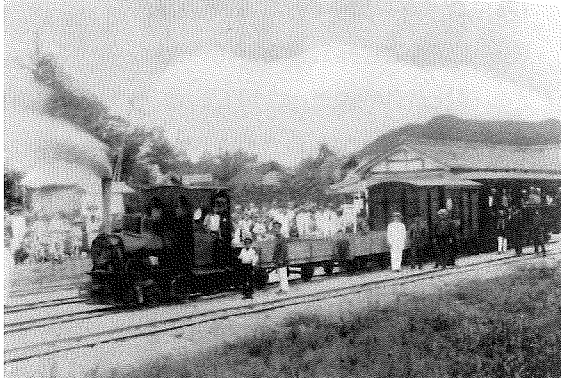


明治5年(1872)、新橋-横浜間(29km)の鉄道路線が日本で初めて開通して以降、すでに150年が経過し、現在、鉄道路線の総延長は27,700km、1日あたり6,800万人が利用する世界でもトップクラスの鉄道大国へと成長しました。

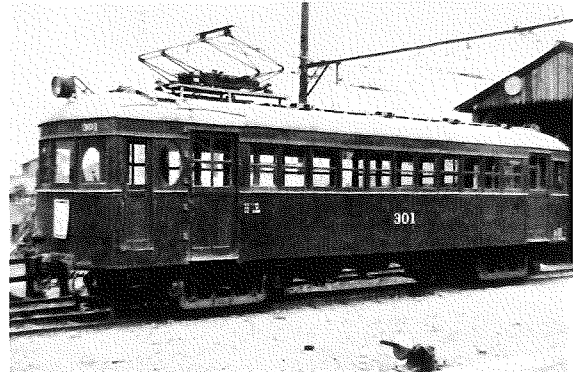
現在の名鉄広見線の一部(新可児-御嵩区間)は、大正9年(1920)8月に東濃鉄道として開通し、その後変遷を遂げながら、開通後100年を経過しました。この区間の開通には、戦争による物資の高騰などにより資金不足に陥り、軌道を縮小するなどの苦しい困難を乗り越え、地元地域の念願のもと開通したと伝えられています。

そんな御嵩町域の鉄道の歴史を、ただ単に「歴史」としてとらえるだけではなく、「鉄道の歴史」とともに、「暮らしのなかにあった鉄道」として、多くの皆様から「鉄道の思ひ出」としてお寄せいただき、紹介することになりました。なつかしいあの時代、なつかしい「思ひ出」…暮らしのなかにあった「鉄道の存在」をあらためて掘り起し、「まなぶ」「たのしむ」「なつかしむ」の3つのテーマに分類した「鉄道の思ひ出」について、みなさんと共有出来たらという想いで本展を開催いたします。

# まなぶ



▲昭和3年(1928)頃の「東濃鉄道」御嵩駅と軽便鉄道  
(現在の御嵩口駅あたり)

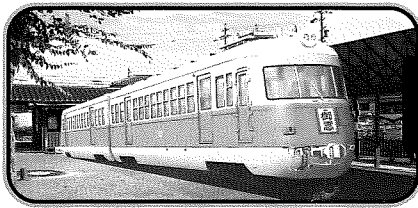


▲昭和20年代の「東美鉄道」1号車両

「いもむし」の愛称で親しまれた懐かしの名鉄3400系を、最新のデジタル技術で再現!

かつてこの地域を走行し、その流線形の車体と緑色のカラーリングから「いもむし」の愛称で親しまれてきた名鉄3400系。思ひ出に残るその姿を最新のデジタル技術を用いて再現します。中山道みたけ館では、非常に貴重な運転席と車内の360°映像がご覧いただけます。また、御嵩駅南側の御嶽宿さんさん広場では、車体が迫力のARコンテンツで出現します。

※御嶽宿さんさん広場のARコンテンツをお楽しみいただくためには、スマートフォン・タブレット等の端末や専用アプリのダウンロードが必要となりますのでご注意ください。



※イメージ

来場記念品・特別記念品のプレゼントあります!

ご来場いただいた方には鉄道にまつわる貴重な記念品をプレゼントします。来場方法や来場期間によって記念品が異なりますので、ぜひコンプリートを目指してください。記念品の内容はホームページにて順次発表していきます! 表面の二次元コードよりご確認ください。

	2月3日(土)～ 3月31日(日)	4月1日(月)～ 6月9日(日)
ご来場の方 全員	来場記念品Aのみ	来場記念品Bのみ
「みたけ・可児 散策きっぷ」を 利用してご来 場された方	来場記念品A + 特別記念品C	来場記念品B + 特別記念品D

※いずれの記念品も数量に限りがございますのでご了承ください。

# たのしむ

# なつかしむ

「鉄道の思ひ出」から…(一部)

今から48年位前の7月7日の事です。

名鉄電車御嵩から岐阜市へ1年間余り通勤している時期の出来事で、その朝は雨降りでは通勤時間帯は非常に混んでいて、各務ヶ原あたりで押されて、たまたま後にいた女性の足を踏んでしまい、足元を黒く汚してしまいました。多少痛かったかも?

通勤を始めて半年位の時で、その女性も就職して1年数ヶ月、1度も顔を見た事が無かったと思います。

その女性が2年後、私の妻になっていました。

今もその妻と暮らしています。

K.A

